



平成25年7月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年3月8日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 ドクターシーラボ
コード番号 4924 URL <http://www.ci-labo.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石原 智美

問合せ先責任者 (役職名) 取締役財務部長 (氏名) 小杉 裕之

TEL 03-6419-2500

四半期報告書提出予定日 平成25年3月11日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年7月期第2四半期の連結業績(平成24年8月1日～平成25年1月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年7月期第2四半期	16,641	△8.8	3,823	△24.0	3,944	△21.8	2,448	△17.6
24年7月期第2四半期	18,250	4.5	5,029	△2.3	5,045	△1.9	2,969	4.0

(注) 包括利益 25年7月期第2四半期 2,493百万円 (△15.7%) 24年7月期第2四半期 2,956百万円 (3.9%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年7月期第2四半期	9,825.23	9,823.73
24年7月期第2四半期	11,826.56	11,820.46

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年7月期第2四半期	21,838	17,730	81.2	71,150.30
24年7月期	22,420	17,205	76.7	69,045.21

(参考) 自己資本 25年7月期第2四半期 17,730百万円 24年7月期 17,205百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年7月期	—	—	—	7,900.00	7,900.00
25年7月期	—	—	—	—	—
25年7月期(予想)	—	—	—	9,000.00	9,000.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年7月期の連結業績予想(平成24年8月1日～平成25年7月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業収益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	38,500	△1.5	9,700	8.2	9,800	8.9	6,050	20.1	24,278.47

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
(注) 当四半期累計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
(注) 詳細は、添付資料P.3、2.(2)「四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 有
④ 修正再表示 : 無
(注) 詳細は、添付資料P.3、2.(3)「会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年7月期2Q	254,192 株	24年7月期	254,191 株
② 期末自己株式数	25年7月期2Q	5,000 株	24年7月期	5,000 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年7月期2Q	249,191 株	24年7月期2Q	251,089 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、P.3、1.(3)「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9
(6) セグメント情報等	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災からの復興需要などにより緩やかな回復基調となり、12月以降は、長期間継続した円高傾向が円安傾向に進み、日経平均も上昇するなど、一部に明るい兆しが見られたものの、実体経済に好影響を及ぼし、景気が好転するまではいまだ時間がかかると見られ、近隣諸国との関係悪化等の影響等もあり、依然として景気の先行きは不透明な状況が続いております。

このような環境の中、当社グループは、効率的な事業展開を目指し、既存顧客の継続購入の向上と新規顧客の獲得という事業成長に必要な両輪をバランスよく運用することに努めてまいりました。

販路別に見ますと、通信販売が第2四半期より既存顧客の購入単価の低下及び新規顧客の獲得不調により、売上を伸ばすことが出来ませんでした。特に例年では、年末年始の時期に購入単価が向上する傾向にありますが、今期においてはお客様の節約志向が顕著に見られ、高単価商品の動きが悪く、前年を下回る大きな要因となりました。

この結果、通信販売の売上高は11,221百万円となり、前年と比較して4.8%減少いたしました。

対面型店舗販売は、ジェノマーブランドや大容量のアクアコラーゲンゲル、福袋といった高単価商品の販売が伸び悩みました。また、収益性、効率性を重視し、不採算の店舗を5店舗閉鎖したことも影響し、対面型店舗販売の売上高は1,974百万円となり、前年と比較して14.8%減少いたしました。

卸売販売においては、QVCでの販売は好調に推移いたしました。また、ファッションイベントのガールズアワードとタイアップし、コラボレーション商品を企画するなど、ハーバル02シリーズの認知度の向上に努めるなど売上高の回復策を講じてまいりました。しかしながら、流通在庫の解消に時間を要した結果、受注の回復が遅れ、前年を上回るに至りませんでした。こうしたことから卸売販売の売上高は3,015百万円となり、前年と比較して18.9%減少となりました。

海外においては、米国において卸売販売中心の事業展開からEコマース中心の事業へ構造を変更している途上であるため、売上高は前年を下回っております。また、台湾においては、百貨店セール等の時期は好調でしたが、通常時の販売状況が改善されず、微増にとどまっています。一方で、香港は新規店舗の効果と中国人観光客の増加により販売状況は好調に推移しており、今後も出店を計画していることから更なる伸長が見込める地域となっております。また、韓国においてもディストリビューターを通じた免税店販売が好調に推移しており、中国人観光客の増加に加え、韓国人顧客の増加も顕著であることから、こちらも期待の持てる地域となっております。更に11月にはシンガポールに1店舗、12月には中国上海に1店舗出店をし、海外事業展開の基盤を着実に進めております。こうしたことから海外事業の売上高は、430百万円となり、前年に比較して0.3%増加となりました。

利益面では、売上高に応じた広告宣伝費、販売促進費の投入をすることにより、収益性の向上を図ったことにより、売上高営業利益率は、第1四半期連結累計期間の19.5%から第2四半期連結累計期間で23.0%と大きく改善いたしました。しかしながら、売上高が前年を下回ったことに起因し、利益面でも前年を下回る結果となりました。

以上により、売上高は16,641百万円（前年同期比8.8%減）、経常利益は3,944百万円（前年同期比21.8%減）、四半期純利益は2,448百万円（前年同期比17.6%減）となりました。

事業の種類別セグメントの概況については、以下のとおりです。

<化粧品事業>

化粧品事業においては、前期においてリニューアルを行い、拡販に注力しております「アクアインダームスーパーエッセンス」の売上高が伸長したのをはじめ、ハーバル02シリーズもファッションイベントとのコラボレーション効果もあり、売上高を伸ばしました。しかしながら卸売販売の流通在庫解消に時間を要した事に起因し、アクアコラーゲンゲルシリーズの売上が鈍化したのをはじめ、お客様の節約志向から年末における大容量の「アクアコラーゲンゲルエンリッチリフトEX」の販売が不調となり、アクアコラーゲンゲルシリーズの売上高が前年を下回る結果となりました。ジェノマーブランド、ラボラボブランドといった第2ブランドに関しては、レギュラー商品のリニューアルや新商品の発売がなかったこともあり、店頭での販売が鈍く、売上高を伸長させることが出来ませんでした。

以上により化粧品事業の売上高は15,550百万円（前年同期比10.4%減）となりました。

<健康食品事業>

健康食品事業は前期より拡販に力をいれております「美禅食」が通信販売で好調に推移しているのと同時に、ドラッグストア、GMSなどに販路を拡大したことにより大きく売上高を伸ばすことが出来ました。またプラセンタシリーズにおいてもQVC限定商品の「プラセンタDXマチュアリフト」や「プラセンタゼリー」などの関連商品も発売するなど商品を拡充し、売上高の伸長を図りました。この結果、健康食品事業の売上高は1,091百万円（前年同期比21.8%増）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産)

総資産は、前連結会計年度末と比較し、582百万円減少いたしました。現金及び預金が1,184百万円、商品及び製

品が344百万円増加した一方で、卸売販売の不調などにより売掛金が2,051百万円減少したことが主因です。

(負債)

負債合計は、前連結会計年度末と比較し、1,106百万円減少いたしました。これは、主に在庫額を抑えるために商品、製品の生産を抑えたことにより買掛金の額が570百万円減少したことに加え、製品回収等関連費用引当金が解消されたことにより、383百万円減少したことによります。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末と比較し、524百万円増加いたしました。これは、配当金による剰余金処分1,968百万円を行った一方、連結累計期間純利益を2,448百万円計上したことが主因であります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

第2四半期の実績および下期の国内外における市場環境等を鑑み、平成24年9月7日に発表した通期の連結業績予想を以下のとおり修正いたします。

平成25年7月期通期(累計) 連結業績予想値(平成24年8月1日～平成25年7月31日) (単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	41,500	10,300	10,300	6,380	25,602.85
今回発表予想(B)	38,500	9,700	9,800	6,050	24,278.47
増減額(B-A)	△3,000	△600	△500	△330	
増減率(%)	△7.2	△5.8	△4.9	△5.2	
(ご参考) 前期実績 (平成24年7月期)	39,082	8,963	8,998	5,036	20,079.50

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成24年8月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

この変更による四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年7月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,981,240	10,165,322
売掛金	5,834,602	3,783,337
有価証券	251,038	251,117
商品及び製品	2,348,782	2,692,810
原材料及び貯蔵品	1,513,828	1,526,589
その他	810,818	818,233
貸倒引当金	△272,032	△268,761
流動資産合計	19,468,279	18,968,648
固定資産		
有形固定資産		
建物	257,123	257,909
減価償却累計額	△157,092	△164,320
建物（純額）	100,030	93,589
工具、器具及び備品	1,149,767	1,171,382
減価償却累計額	△890,469	△921,929
工具、器具及び備品（純額）	259,298	249,452
その他	91,861	89,964
減価償却累計額	△4,514	△10,225
その他（純額）	87,347	79,738
有形固定資産合計	446,676	422,780
無形固定資産		
ソフトウェア	591,800	523,219
その他	35,189	33,054
無形固定資産合計	626,990	556,273
投資その他の資産		
投資不動産	1,628,634	1,628,634
減価償却累計額	△76,482	△79,866
投資不動産（純額）	1,552,151	1,548,767
その他	326,751	342,098
投資その他の資産合計	1,878,902	1,890,866
固定資産合計	2,952,570	2,869,920
資産合計	22,420,849	21,838,568

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年7月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年1月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,075,809	504,973
未払金	1,576,222	1,440,164
未払法人税等	1,555,026	1,561,559
賞与引当金	87,301	88,802
ポイント引当金	122,369	122,530
商品回収等関連費用引当金	383,000	—
その他	197,339	170,308
流動負債合計	4,997,068	3,888,339
固定負債		
退職給付引当金	90,226	98,339
その他	128,108	121,803
固定負債合計	218,334	220,142
負債合計	5,215,403	4,108,482
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,201,810	1,201,900
資本剰余金	1,679,210	1,679,300
利益剰余金	15,782,040	16,261,792
自己株式	△1,354,566	△1,354,566
株主資本合計	17,308,494	17,788,426
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	—	1,487
為替換算調整勘定	△103,049	△59,828
その他の包括利益累計額合計	△103,049	△58,340
純資産合計	17,205,445	17,730,086
負債純資産合計	22,420,849	21,838,568

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年8月1日 至 平成24年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年8月1日 至 平成25年1月31日)
売上高	18,250,711	16,641,369
売上原価	3,219,281	2,724,381
売上総利益	15,031,429	13,916,987
販売費及び一般管理費	10,001,968	10,093,683
営業利益	5,029,461	3,823,304
営業外収益		
受取利息	1,275	988
受取配当金	113	98
為替差益	—	107,108
受取手数料	6,565	5,587
商品破損受取賠償金	1,669	2,519
償却債権取立益	4,802	214
投資事業組合運用益	14,431	—
その他	3,264	8,165
営業外収益合計	32,123	124,681
営業外費用		
支払利息	—	513
減価償却費	3,395	3,383
為替差損	9,247	—
支払手数料	3,049	—
その他	862	65
営業外費用合計	16,554	3,962
経常利益	5,045,030	3,944,022
特別利益		
固定資産売却益	158	210
特別利益合計	158	210
特別損失		
固定資産除却損	1,928	5,110
投資有価証券評価損	21,200	—
減損損失	2,572	—
特別損失合計	25,701	5,110
税金等調整前四半期純利益	5,019,487	3,939,123
法人税等	2,049,963	1,490,762
少数株主損益調整前四半期純利益	2,969,524	2,448,360
少数株主利益	—	—
四半期純利益	2,969,524	2,448,360

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年8月1日 至平成24年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年8月1日 至平成25年1月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,969,524	2,448,360
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	10,235	1,487
為替換算調整勘定	△22,955	43,220
その他の包括利益合計	△12,720	44,708
四半期包括利益	2,956,803	2,493,068
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,956,803	2,493,068
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年8月1日 至 平成24年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年8月1日 至 平成25年1月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	5,019,487	3,939,123
減価償却費	238,230	203,887
長期前払費用償却額	4,633	4,940
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	8,212	△3,271
賞与引当金の増減額 (△は減少)	16,738	1,501
ポイント引当金の増減額 (△は減少)	△18,445	161
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	8,590	8,113
商品回収等関連費用引当金の増減額 (△は減少)	—	△383,000
受取利息及び受取配当金	△1,389	△1,086
支払利息	—	513
投資有価証券評価損益 (△は益)	21,200	—
減損損失	2,572	—
固定資産除却損	1,928	5,110
売上債権の増減額 (△は増加)	580,457	2,078,467
たな卸資産の増減額 (△は増加)	55,864	△336,619
仕入債務の増減額 (△は減少)	△189,901	△591,227
未払金の増減額 (△は減少)	△537,393	△122,872
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△36,368	8,988
預り金の増減額 (△は減少)	△57,086	958
その他	△65,891	△35,543
小計	5,051,440	4,778,143
利息及び配当金の受取額	1,275	988
利息の支払額	—	△513
法人税等の支払額	△2,328,778	△1,506,840
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,723,938	3,271,777
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△57,477	△61,897
無形固定資産の取得による支出	△103,598	△63,481
差入保証金の差入による支出	△4,820	△7,598
その他	△3,988	△10,130
投資活動によるキャッシュ・フロー	△169,885	△143,107
財務活動によるキャッシュ・フロー		
株式の発行による収入	13,713	180
配当金の支払額	△1,673,327	△1,957,435
その他	950	△5,785
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,658,663	△1,963,040
現金及び現金同等物に係る換算差額	△12,459	18,451
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	882,930	1,184,082
現金及び現金同等物の期首残高	7,839,768	8,981,240
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,722,698	10,165,322

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) セグメント情報等

[セグメント情報]

I 前第2四半期連結累計期間(自平成23年8月1日至平成24年1月31日)

当社グループの報告セグメントは、化粧品事業及び健康食品事業であります。健康食品事業は全セグメントに占める割合が僅少であり、開示情報としての重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成24年8月1日至平成25年1月31日)

当社グループの報告セグメントは、化粧品事業及び健康食品事業であります。健康食品事業は全セグメントに占める割合が僅少であり、開示情報としての重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。